

## 日経 BP ムック 東京大学理学部版発行される

広報委員長 山本 智 (物理学専攻 教授)

2006年5月8日(月),「日経 BP ムック『変革する大学』シリーズ・東京大学理学部」が発行された。これは、高校生、大学生など理学を支える次の世代に、理学の面白さ、研究の醍醐味、研究方法のバラエティーの広さなどを生き生きと伝え、また将来へのさまざまな研究キャリアを紹介する中で、理学部・理学への興味と関心を高めてもらうことを目的とし、広報委員会と日経 BP 社が共同して作成したものである。

巻頭の柴先生特別栄誉教授と学生との対

談では、柴先生から理学を志す若者へ向けた熱いメッセージを掲載した。Part1では理学部の現状や未来について総長、研究科長に語ってもらうとともに、企業からみた理学部について理学部諮問委員であり東京電力株式会社顧問の荒木浩氏に寄稿いただいた。Part2では理学部および理学系研究科で行われている最先端の科学を十数名の教員を通して紹介するとともに、研究現場で活躍する大学院生にも登場してもらっている。Part3では、社会で活躍するOB・OGの今の姿から、理学部では何が得られ、それをどう生かすのか探っている。

この本は公開講演会、オープンキャンパス、進学ガイダンスで配布するほか、高校や予備校などに配布する予定である。

また、その他の研究科や専攻の行事で活用していただければと思う。もちろん一般の書店でも販売されている。

最後に、編集に協力していただいた教員、学生、事務の方々はこの場を借りてお礼申し上げたい。



日経 BP ムック「変革する大学」シリーズ  
東京大学理学部

## 東京大学理学部のロゴマークを募集します

大学院理学系研究科長・理学部長 岩澤 康裕  
広報委員長 山本 智

### 趣旨

法人化後、いろいろな場面で東京大学大学院理学系研究科・理学部のアイデンティティが問われることが多くなっており、理学系研究科・理学部ではそのまとまりを象徴するロゴマークを制定することにしました。制定にあたっては、構成員や出身者に広く公募し、みなが親しみを持てるロゴマークにしたいと思います。採用したロゴマークは、広報誌、ホームページをはじめとして、本研究科の作成する文書や広報活動において広く活用していく予定です。皆様のご応募をお待ちしています。

### 応募規定

デザインに制限はありません。ただし、理学部ロゴマークとして理学部ニュースや理学部ホームページなど、多方面で利用できるものであることが必要です。

### 応募資格

東京大学大学院理学系研究科・理学部構成員(大学院生、学部生を含む)、および卒業生

※個人のみならずグループや団体での応募も可能(たとえばXX学科3年有志など)。

### 応募方法

氏名、所属、連絡先を明記し、紙媒体もしくは電子媒体で提出して下さい。

※応募方法の詳細は、理学部ホームページをご覧ください。

URL: <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/logo/>

### 応募締切

2006年9月29日(金)

### 賞

採用作品(1点) 5万円、ただし部分採用の場合は3万円。

### 発表

理学部ホームページ上にて発表します。

### 応募先および問い合わせ先

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学大学院理学系研究科・理学部

事務部庶務係広報担当(広報室)

T E L: 03-5841-7585 (内線 27585)

E-mail: [kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

### 決定方法

広報委員会にて設置する審査委員会で決定します。

### その他

- ・ 応募作品の中から良いものを選び、さらにデザイナーなどに依頼して完成度を高める可能性があります。
- ・ 適当なものがない場合は採用しないこともあります。
- ・ 採用された作品の著作権は、大学院理学系研究科・理学部に移譲していただきます。
- ・ 作品は未発表で他の著作権や商標を侵害しないものに限りです。

## 山川健次郎元東京帝国大学総長の胸像などの寄贈を受ける

■ 佐藤 勝彦（物理学専攻 教授）

2006年5月23日（火）、山川健次郎元東京帝国大学総長の胸像、ゆかりの文書、写真など24点が山川先生の曾孫に当たる福田宏明氏（東海大学名誉教授）から理学系研究科に寄贈された。また同時に、山川先生の孫である三木教子（のりこ）氏から、先生の物理学の教科書の原稿など7点が寄贈された。ともに本研究科ご卒業の山田直氏（ロンドン在住）のご紹介によるものである。

山川健次郎先生（1854～1931年）は1881年、日本人として初めて東京大学の物理学の教授に着任され、以後、東京帝国大学総長を2度（1901～1905年、1913～1920年）務められた。理学系研究科にたいへんゆかりの深い方である。

先生はイェール大学のご卒業であるが、そのホームページ<sup>1)</sup>によれば、日本において最初のX線研究を行っている。在職期間に田中館愛橘、長岡半太郎、寺田寅彦はじめ、日本の物理学の基礎を作った方々を本学部より輩出している。山川先生は会津の出身で少年時代には白虎隊にも属していた。後に九州帝国大学、京都帝国大学の総長も務められた（詳しくは文献<sup>2)</sup>）。寄贈された文書のなかには、田中館愛橘、長岡半太郎、菊池大麓からの書簡などあり、歴史的にきわめて興味深い。



■ 寄贈の様子。左から、内田物理学専攻長、佐藤教授、山田氏、岩澤研究科長、福田氏、三木氏、平賀事務長。

い。1890年ころに撮影された数学、物理、天文の教授など、帝国大学理科大学の教員の集合写真も貴重な資料である。教科書原稿も当時、物理学がどのように教えられていたかを知る上でたいへん興味深い。いただいた資料は、物理学専攻で保存することになった。寄贈いただいた福田宏明氏、三木教子氏、および紹介の労を執られた山田直氏に深く感謝したい。

1) <http://yale.edu/opa/intl/japan/docs/history.html>

2) 星亮一：「山川健次郎伝—白虎隊士から帝大総長へ」平凡社、2003年



■ 胸像の写真が岩澤研究科長に手渡しする福田氏。左は三木氏。

## 植物園で学生・教職員の交歓会が開かれる

■ 高橋 博行（副事務長）

大学院理学系研究科・理学部の恒例行事となっている学生と教職員の交歓会（第42回）が、2006年5月22日（月）午後3時から理学部附属植物園（小石川植物園）において開催された。

今年度の交歓会は五月祭や会計検査の

日程を見込んで、昨年より1週間早めた日程で行われた。また昨年度と同様、各学科から選出された総勢21名の学生有志と職員により、企画から準備、後片付けまでが共同作業として実施された。ゴールデンウィーク以来、雨模様の不順な天気が続く中、当日は幸運にも天候に恵まれ、美しい新緑の園内にはおよそ630名を超える学生・教職員が集まった。学生2名による進行により、初めに岩澤研究科長、長田植物園長の挨拶があり、

松浦副研究科長の発声で交歓会が開始された。

学生・教職員はもとより名誉教授の方々にも多数参加いただき、芝生には飲み物などを手に学科・専攻を越えて語り合う懇親の輪が幾重にも広がり、新緑を満喫しながら、和気藹々とした楽しい交歓のひと時を過ごした。途中、学生からのスピーチなどもあり、最後は酒井副研究科長の挨拶で締めくくり、午後5時すぎに散会した。



■ 岩澤研究科長の挨拶



■ 歓談の様子